

## 浮遊する、現代へのまなざし

### 印象主義・象徴主義

**坂本** これから、ドビュッシーについていろいろお話をしていきたいと思いますが、まず基本的なくくりとして、ドビュッシーは「印象派\*」の作曲家なのか？ そもそも、「音楽家における印象派」とは？ という大きな疑問がありますよね。そういう疑問は一般的になりつつあるのかな？

**浅田** ひと昔前は、ドビュッシーといえば印象派と言われていた、それはさすがに見直されてきているんじゃないでしょうか。ドビュッシーは1862年生まれで、74年に「印象派展」が始まる頃はまだ子供、むしろ86年に印象派が象徴派（サンボリスム）\*に交代する頃、若い作曲家として活動を始めていた。象徴派の周辺から出てきた人と言えるでしょう。

**坂本** そうですね。

**浅田** 現に、象徴派の法王のような存在だったマラルメ\*のサロンに出入りして薫陶くんこう

■印象派（印象主義）  
1860年代にフランスで起こった絵画を中心とする芸術運動。呼び名は74年に発表されたモネの絵『印象、日の出』の題名に由来する。このように呼ばれる代表的な作家はモネ、マネ、ドガ、シスレー、ルノワールなど。

■象徴派（サンボリスム／象徴主義）  
印象派や自然主義の客観描写に対し、象徴作用と装飾形式によって想像の世界を暗示しようとする芸術運動。ラッポーを先駆、マラルメを中心として、19世紀フランスからヨーロッパ諸国へ波及した。

■ステファヌ・マラルメ（1842～1898）  
フランス象徴派を代表する詩人。言葉の可能性に対する徹底的な追

を受けるとか、その詩に基づいて『牧神の午後への前奏曲\*』を作曲するとか、あるいは、ベルギーの象徴派詩人メーテルリンク\*の『ペレアスとメリザンド\*』をオペラ化するとか、そうやって霧の中を浮遊するようなあの独特の音楽が生み出される。

**坂本** マラルメの前にも、ヴェルレーヌ\*やボードレール\*の詩を使ってたくさんの歌曲を書いていますから、そういう「詩」との付き合いから始まっている、というところはありますね。

**浅田** それも最初はサロンの音楽だったのが、やがて象徴派の核心まで行き着くんですね。逆に、その後『海』まで行くと、明るい陽光の下で、波と波、水滴と水滴がダイナミックにぶつかり合っつてきらめくような表現が出てくる。そこで初めて印象派的と言えなくもない表現を試みるわけで、流れとしては逆なんです。

**坂本** たしかに『海』は印象主義的と言えなくもないですが、その後にもまた『遊戯』とか、あるいは後期のソナタでも特徴的ですけど、いわゆる「ソナタ」、つまり「ソナタ」の語源であり根源でもある「響き」に迫るようなものを書いていくわけで、そう考えるとやはり、印象主義的な作品というのは非常に少ないとも言えますよね。

**浅田** だから、僕は最初は『海』が苦手だった。小沼さんは最初に『海』を聴いて感動したというお話でしたけど。

**小沼** はい、最初は『海』でした。非常にインパクトが強かったのですけれど、結局、印象主義でも象徴主義でも、それらの言葉というのは基本的に文学や絵画や美術なんかの言葉を転用しています。だから、どうしても少しずれてしまうし、そこに無理やりあてはめようとするから余計にずれる、ということがあるように思えます。

**坂本** そうでしょうね。昔のアナログ盤なんかだと、必ずカバーにモネ\*の絵なんかがついていて、あれは本当に……刷り込みですよ（笑）。

**浅田** 『海』のスコア\*はもともと葛飾北斎\*の『神奈川沖浪裏』が表紙にフィーチャーされていた。ああいう浮世絵が印象派に影響を与えたのは事実です。ただ、波がどんな分岐し、ほとんどフラクタルになっていく感じなんかを見ると、あの絵と『海』とが直接繋がっているの、印象派を持ち出す必要はないのかもしれない。

**坂本** その意味で言うと、北斎の版画は非常に大胆な構図を持っているけども、『海』という交響詩自体が持っている構造とか、曲の書き方が面白いと言えるんですね。ただ、僕自身は弦楽四重奏曲からドビュッシーに入っているの……。

**浅田** 渋い（笑）。

**坂本** なぜか、そこで運命的な出会いをってしまったのですが（笑）、どうも僕にとつて『海』というのは、よく書かれているけれども、たとえば3楽章なんて、2楽章の

※ 求から生み出された作品は後世に大きな影響を及ぼした。代表作として詩『牧神の午後』『エロディード』、評論集『ディヴァガシオン』など。

■ 牧神の午後への前奏曲  
1894年に作曲された管弦楽作品。詳しくはp27を参照。

■ モーリス・メーテルリンク (1862～1916)  
ベルギーの詩人・劇作家。1911年に『青い鳥』でノーベル賞を受賞。その他の代表作に『温室』『ペレアスとメリザンド』など。

■ ペレアスとメリザンド  
多くのオペラ作品を構想していたドビュッシーが唯一残したオペラ。原作はメーテルリンクの同名戯曲。1893～1902年

作曲。1902年初演。

■ ポール・ヴェルレーヌ (1844～1896)  
マラルメと並びフランス象徴派詩人の代表的存在。代表作に『艶やかな愛』『無言歌』『睿智』『秋の歌』など。

■ シャルル・ボードレール (1821～1871)  
フランスの詩人・評論家。1857年、6部から成る韻文詩集『悪の華』を出版し物議を醸す。その他の作品に『人工楽園』『パリの憂愁』など。

■ クロード・モネ (1840～1926)  
フランス印象派の代表的画家。代表作に『ルーアン大聖堂』『睡蓮』など。

■ スコア  
合奏するすべての音部